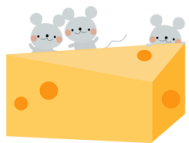


## ご寄付のお願い

2012年5月1日から2012年12月1日までにご寄付頂いた皆様方のお名前です。ありがとうございました。

- 莊氣横山様
- 森 一正様
- 前田 浩志様
- 高松 英夫様
- 由村 和之様
- 岡村 健様
- 川村 英樹様
- 宮崎 年恭様
- 柳元 尚喜様
- 神本 三千男様
- 医療法人愛育会 愛育病院様
- プルデンシャル生命保険株式会社様
- 医療法人真愛会伊佐整形外科様
- 鹿児島南ロータリークラブ様
- 渡辺 紀美様
- 仁木 喜久美様
- 河野 保夫様
- 三木 淑子様
- 大橋 十也様
- 山田 和彦様
- 鎌之原 綾子様
- 福川 勉功様
- 諸隈 恭介様
- 宮田 晃一郎様
- 西 順一郎様
- 大竹山 令奈様
- 久留須 浩一様
- 村上 直樹様
- 名越 和子様
- 田中 美佳様
- 稲垣 文江様



認定NPO法人発足に伴う変更事項：  
一般寄付・賛助会費は税控除の対象となりますので、領収書をお送り致します。

### ■一般寄付

本法人の活動意義をご理解頂き、ご寄附を賜りますようお願い致します。  
現金收受の方法は、事務局へお問い合わせ下さい。

■個人賛助会員：年会費・・・・・・12,000円

■法人賛助会員：年会費・・・・・・120,000円

### ■募金箱

募金箱をお置きいただける店舗・企業・他を募集しております。ご賛同いただける方は、事務局までご連絡下さい。

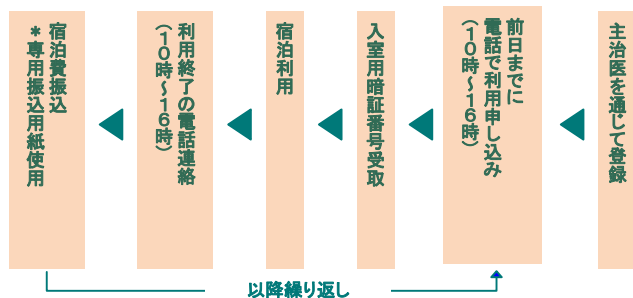
本法人の活動意義をご理解頂き、活動を支援いただける個人又は企業の入会をお願いしております。

入会申込書をホームページからダウンロードして事務局へお送り下さい。

## 「鹿児島ファミリーハウス」のご利用方法

- 鹿児島市内の病院に通院、入院する患児とご家族のための宿泊施設です。
- 基本的な電化製品・台所用品・寝具・他のご用意があります。
- 1,000円/1泊(宿泊人数は何人でもOK)でご利用できます。
- セルフサービス(清掃、ゴミの始末、その他)です。
- ボランティアの方達によって維持管理して頂いております。ご協力を。

### ご利用の流れ



\* (注)要/事前登録/ご希望の方は主治医にご相談下さい。

篤志家のご協力の下に鹿児島市鴨池2丁目(鴨池電停から徒歩1分)にあるビルの部屋(1K、1DK)をご提供頂き、平成19年7月からNPO法人子ども医療ネットワーク運営の鹿児島ファミリーハウスが誕生しました。

お問い合わせ/子ども医療ネットワーク事務局 TEL 099-275-5354

## お問い合わせ先

### 認定NPO法人子ども医療ネットワーク本部

〒890-8520 鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘8-35-1  
鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 小児診療センター小児科内  
電話：099-275-5354

### 認定NPO法人子ども医療ネットワーク事務局

電話：099-275-5354 / FAX: 099-265-7196

## 活動について・お約束

**活動** 離島やへき地など、小児医療の専門医が少ない地域に住んでいるご子どもさん、長期間の入院が必要な病気にかかった時に、ご家族を含めて安心して闘病できるように支援する事を目的に設立されました。又、難病等にかかり遠方から来院なさるご子どもさんとそのご家族にも広く門戸を開き、病気に対する不安や疑問を軽減し、外泊あるいは通院にかかる負担を軽減する為の事業を行います。すべてが皆様の共感とご協力のもとに運営されています。

**お約束** 皆様からお預かりした個人情報は  
・会員のご案内の発送以外の目的で使用することはありません。  
・ご本人の同意なく第三者に開示・提供することはありません。

ホームページは随時更新中です

<http://www.kufm.kagoshima-u.ac.jp/~ped/kodomoiryo/>

会員の方々と事務局を結ぶ.....

# こねっと通信

2012.AUTUMN VOL.11



## ■ファミリーハウス

## ■健康相談会・巡回診療

## ■子ども救急箱

## ■ふれあいコンサート

## ■その他

Save the Children  
私達は離島・へき地の  
難病児を支援します

すべての子どもに適切な小児医療と  
快適な闘病生活を



認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)  
子ども医療ネットワーク

認定NPO法人への寄附は、税額控除の対象となります。

## 子ども医療ネットワーク

### 理事長のご挨拶

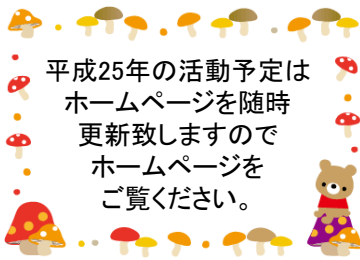
子ども医療ネットワークも第8期の終わりになり、へき地離島の病気の子どもたちの応援団として今後どのように展開するか、活動内容を再検討する時期になったと考えております。当法人の事業の核は、交通費支援とファミリーハウスの運営、それと健康相談会の開催です。今回は健康相談会の特集として3つの相談会の報告記事に掲載しました。多くの方々のご支援で開催しておりますが、実際のニーズに適切に対応できているかどうか再検討が必要だと考えております。急激なインターネット環境の整備によって場所による情報格差は著しく改善しております。情報提供だけの目的ではニーズに合っていないかもしれません。皆様のお知恵をいただければと思います。(理事長 河野嘉文)

### 子ども健康相談会

#### 種子島報告書から

種子島に於いて4回目となる子ども健康講演会&相談会を、平成24年8月19日に開催しました。講演会では小児科の稲葉先生からは予防接種について、同じく小児科の溝田先生からは、小児のメタボリックシンドロームについて、また、小児歯科の長谷川先生からは子どもの虫歯予防について講演をお願いしました。予防接種率の低さや、虫歯の保有率の高さなどといった地域の特性に

平成25年の活動予定はホームページを随時更新致しますのでホームページをご覧ください。



(上)病院小児科 樋木大祐

### 子ども健康相談会

#### 奄美大島報告書から

雨の中での開催でしたが、保健師さん含め大和村役場の方々に協力頂き、大人10名、子ども6名の参加がありました。始めに県立大島病院小児科小川結実先生がNPOの活動内容目的の報告をし、続いて大和村診療所歯科名越太先生から「乳歯から創める8020健口生活に向けて」の講演。口の中に何か入っている時間が長い口の中を酸性にしている時間が長い。むし歯になりやすい。1歳6か月で哺乳瓶を使っている人。3歳時で間食が多い人はむし歯が多い。むし歯の原因菌を感染させないために子どもだけでは周りの人も口のケアを、など歯の大切さ、日々の努力の必要性を学びました。

次に小児科アレルギー科の今村直人先生に「子どものアレルギー」の講演。アトピー(スキンケア)、脱衣所で塗る、ステロイドは必要に応じて使えば怖くない、炎症をしっかりと抑える、食物アレルギー(食べることを目的とした最小限度の食品除去、成長を考慮して積極的に解除を図る)など、特にアトピーで笑顔のなかつた子が痒みの改善で笑顔になった写真が印象的でした。最後の個別相談は計5家族の参加があり、少人数ながら終始和やかな雰囲気でした。今回は雨にも関わらず参加頂いた方、協力頂いた役場の方、講演の先生方、誠に有難うございました。(県立大島病院小児科 今村 真理)

(相談会の様子)



### 子ども健康相談会

#### 沖永良部報告書から

2012年12月2日(日)に沖永良部和泊町社会福祉センターにおいて、子ども相談会を開催しました。日本列島は例年稀に見る寒波に見舞われた時期でしたが、沖永良部は強い風が吹いていたものの鹿児島市内より十度近くも暖かい気温でした。

久保田医師が発熱時の対応やけいれん時の家庭での対応の仕方、予防接種についてお話し、同山遠医師が地域の方から要望のあった「しらみ虱」のお話をクイズ形式にして楽しく紹介しました。会場からの質問もいただき、話しやすい雰囲気です。盛り上がりました。また、恒例となつている小児ペピーの心肺蘇生講習会も人形とAEDを使用して行いましたが、会場の方は異物誤嚥への対応にも興味がありそうだったので、来年は異物誤嚥対応の人形を揃えて持つていこうと思います。

「こねっと通信」は、会員の方々と本部・事務局を結ぶコーナーです。ご意見・ご要望をドンドンお寄せ下さい。

《宛先》 ●〒890-8520鹿児島市桜ヶ丘8-35-1 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 小児診療センター小児科内 「こねっと通信」係  
●E-mail kodonpo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp http://www.kufm.kagoshima-u.ac.jp/~ped/kodomoiryo/

### 子ども救急箱

《ほめて楽しく》  
理事長 河野 嘉文  
(鹿児島大学小児科)  
2013年2月25日南日本新聞掲載



※子ども救急箱の記事は2006年4月から隔週に掲載されています

立てれば、と思ひ活動を続けたいと思ひます。  
(鹿児島大学病院小児科 久保田 知洋)

### ファミリーハウス

#### のご案内

子ども医療ネットワークでは、遠隔地から鹿児島市の医療機関に通院するご家族にファミリーハウスをご提供しております。詳しくは裏面をご確認の上、主治医の先生までご相談下さい。



「人って自分が育てられたように自分の子供を育てる傾向がありますよね。我が家は二つの異なる文化がぶつかり、娘からは『お母さんはいつも私が自分に自信を無くすようなことばかり言う!』と言われました。』とは米国人との間に生まれた子どもさん育てた友人の言葉です。長所を褒めて伸ばそうという方針は社会全体で叫ばれていますが、現実の日本文化は欠点を矯正するのが主流のようです。子どもを言葉で正しい方向へ導こうとしますが、子どもは親の背中を見て育つと言われるように、手本を示せば言葉は必要ないということも知られております。実際には、社会の基準は多様であり、導くべき正しい方向というのが意外と難しいものです。自分に合うことと合わないことの区別は簡単ですが、正しいことと悪いことの2つに分けられるものではないからです。

何時に寝て何時に起きるかというテーマから、後片付けができるか、薄着か厚着か、小児科を受診するか家で寝ているか、などいろいろ大人の基準で子どもに指示することが多いと思ひます。年齢によって適切な対応は異なりますが、会話が成立するようになったら、まずは子どもの意見を聞いてみるという余裕を持てればよいと思ひます。もちろん、予防接種をしたいという子どもは多いと思ひますが、そこは必要性を理解させてあげてください。子どもの良い点をほめることで少しでも子育てが楽しくなればよいですね。お母さんの気持ちに余裕がないとほめることはできません。努力して余裕を作ってください。先日、我が家の6歳児が「早く寝ると朝は気持ちよく起きられるね」と言いながら起きてきました。早く寝るべきだと自覚したかも、寝る子は育つ、とほめてあげました。